

1月保健ガイド

母子保健・予防接種

問 子ども家庭課 ☎56-0210

内容(予は要予約)	とき	対象(対は対象)
親子健康手帳交付	7日(火) 10:00 集合 23日(木) 13:30集合	妊婦
📺 パパママ教室(1回目) ※定員9組	23日(木) 10:00開始～ 11:00終了予定	主に妊娠6か月頃までの初妊婦とそのパートナー
📺 パパママ教室(2回目) ※定員 平日6組 土日9組	17日(金) 13:15受付～15:30終了 26日(日) 9:15受付～11:30終了	主に妊娠7か月以降の初妊婦とそのパートナー ※3日前までに予約がない場合は中止
📺 妊婦訪問	訪問は予約制です。(希望者は保健センターへ連絡してください)	妊婦(訪問は妊娠中1回)
📺 こんにちは赤ちゃん訪問	3～4か月児健診受診前	すべての赤ちゃんとその保護者
📺 のびのび 計測日	青少年児童センター 10日(金) 市が洞児童館 20日(月) 10:00～10:30受付 保健センター 28日(火)	未就園児※医師の診察はありません 📺 親子(母子)健康手帳・乳児の場合は バスタオル
📺 妊産婦歯科健康診査	予約してから、市内委託医療機関で 受診してください	妊婦と産後1年未満の産婦
📺 予防接種	対 1価ワクチン 出生6～24週 5価ワクチン 出生6～32週	
📺 B型肝炎	対 生後1歳未満	
📺 ヒブ、小児用肺炎球菌	対 生後2～60月に至るまで	
📺 4種混合、5種混合	対 生後2～90月未満	
📺 BCG	対 生後1歳未満	
📺 麻しん・風しん混合(MR)	対 第1期 生後12～24月未満 第2期 小学校入学前の1年間	
📺 水痘	対 生後12～36月未満	
📺 日本脳炎	対 1期 生後6～90月未満、2期 9～13歳未満 救済制度により対象以外で接種可能な場合あり	
📺 二種混合	対 11～13歳未満	
📺 HPV 2価・4価・9価	対 小学6年生～高校1年生の女子 キャッチアップ接種を実施しています	

成人保健・予防接種

問 健康推進課 ☎63-3300

成人保健	📺 39歳以下健診	21日(火)	16～39歳の人(20歳以上の女性は子宮頸がん検診も追加可)
	📺 個別子宮頸がん・乳がん検診	2月28日までに市内委託 医療機関で受診してください。	
	📺 集団女性がん検診	乳がん 22日(水) 子宮頸がん 9日(木) 子宮頸がん・乳がん 14日(火)、30日(木)	西暦偶数年生まれの女性(昨年度受診 していない西暦奇数年生まれの人も可) 子宮頸がん20歳以上・乳がん40歳以上
	📺 歯周病検診	1月31日までに市内委託 歯科医院で受診してください。	20歳、30歳、35歳、40歳、45歳、50歳、 55歳、60歳、65歳、70歳、75歳、80歳
予防接種	📺 高齢者インフルエンザ	対 65歳以上の人または60～65歳未満で心臓・腎臓・呼吸器の機能、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能などに障がいがある人	
	📺 高齢者新型コロナ		
	📺 高齢者肺炎球菌	対 65歳の人または60～65歳未満で心臓・腎臓・呼吸器の機能、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能などに障がいがある人	

<任意予防接種助成> 風しんワクチン、帯状疱疹ワクチンの接種費用の一部を助成します(対象者に限る)。

📢 その他お知らせ

納期限(1月31日)

税 目	納 期	問合先
市・県民税	第4期	収納課 ☎56-0610
国民健康保険税	第7期	
後期高齢者 医療保険料	第7期	保険医療課 ☎56-0617

口座振替の人は、納期限の日引き落とししますので、前日までに残高を確認してください。

日曜・祝日の受診は

東名古屋医師会休日急病診療所
☎0561-73-7555

診療日時	日曜・祝日・年末年始 9:00～16:30 (昼休憩1時間あり ※12月30日～1月3日は 昼休憩なし)
診療科目	内科・小児科
所在地	日進市蟹甲町中島22

急な病気・ケガの時は

救急医療情報センター
☎0561-82-1133

24時間365日対応可。症状に応じてその時診療できる最寄りの医療機関を案内。

愛知医科大学病院 時間外診療

救急でかかりつけ医が開いていない場合、診療を受けることができます。まず、電話で相談してください。
☎0561-62-3311(代表)

なお、時間内、時間外問わず、紹介状なしで受診する等の場合、選定療養費が必要になることがあります。詳しくは愛知医科大学病院へお問い合わせください。

まちの保健師

保健師がさまざまな場所に出向き、健康相談をお受けします。詳細は市HPへ。

健康教育で健康格差を小さくすることの重要性

長久手メンタルクリニック 久世明帆

👨‍⚕️ ドクター からあなたへ

私たちの健康状態は生活習慣や遺伝的な要因だけでなく、所得や学歴などの経済的・社会的な要因、業種や雇用形態などの労働環境も関係しています。このように、地域や社会経済状況の違いにおける健康状態の格差のことを「健康格差」といいます。生まれた家庭の社会経済的な地位によって、子どもの教育水準や生活習慣などに違いが生じる可能性があります。幼少期の経験は、大人になってからの生活にも影響することから、成人期から老年期における健康格差にもつながる場合があります。限られた家計の中で、どのような食事や生活習慣、医療を選択すれば病気を予防し、健康な生活を送ることができるのか。正しい知識を身につけ、常に新しい情報を得る重要性を子どもたちに伝えることで、健康格差を小さくすることができます。

第24回あのドクターにあのお話を

🕒 1月11日(土)14:00～

📍 愛知医科大学本館2階 たちばなホール
※駐車場無料

📌 (1)ポストコロナ時代の子どもの感染症、気をつけることは?(2)加齢性難聴とイヤホン難聴、補聴器(3)過敏性腸症候群対策(4)子宮頸がんワクチン

📞 長久手メンタルクリニック ☎0561-56-7855